

■ 100号記念によせて ■

学会誌100号記念によせて

エネルギー・資源学会前会長
学位授与機構長
東京工業大学名誉教授

田 中 郁 三



「エネルギー・資源」通巻100号の刊行おめでとうございます。

当学会は昭和55年に創立されましたが、現在では正会員2,000名、特別会員200社をそれぞれ越えたと聞いており、喜んでおります。私は初代会長前田四郎先生（東北大学学長（当時）、2代目会長水科篤郎先生（当時京都大学名誉教授、故人）の後を受け、会長をさせて頂きました。現在の三井恒夫会長（東京電力（株）最高顧問）とご一緒になることもありますので、会長を退いてからも当学会のお話を聞くことがあります。最近の学問・研究の進展は学際的分野において強く感じるのですが、エネルギー、資源と環境はその学際的分野の代表とってよいでしょう。当学会が中堅のサイズにもかかわらず、これらの分野で多彩に事業を展開しており、外からみてなかなか機動力のある学会との印象を与えているのではないのでしょうか。また当学会は全国組織であり、全国的な運営をしているわけですが、本部が関西にあるのも、なかなかユニークではないかと思っております。

学会誌「エネルギー・資源」は毎号タイムリーな特集を中心とした充実した内容であり、特に保存して後々も役に立つという点で、我々研究者仲間でも大変好評です。昭和55年に創刊号を出された初代編集実行委員長の佐藤俊先生（京大、機械）（故人）はじめ、その後委員長を引き継がれた川村登先生（京大、農学）、坪村宏先生（阪大、化学）、林宗明先生（京大、電気）そして現在の委員長の越後亮三先生（東工大、機械）および全国から集まられている産・学・官の編集実行委員の方々の並々ならぬ御尽力の賜であり、ここに敬意を表したいと思います。勿論、指導的立場の理事会の方々や、日頃の学会の数々の事業（研究発表会、講演会、講習会、国際会議、研究プロジェクト、海外調査等）を見事に果たされている企画実行委員会、さらに財政的基盤を構築されている総務委員会の方々の御努力をはじめとして、学会を構成している正会員の皆様や特別会員会社のサポートによって、ここまで発展してきたことに対して、関係各位に謝意を表します。

もとより「エネルギー・資源学会」はグローバルなテーマであるエネルギー、資源、環境に関する諸問題を取り上げ、科学技術の面から許りでなく常に経済性の立場からも深く追求していく基本方針をもっております。最近特にリサイクルについて種々の角度から現状の解析を行い、その対策について論じるなど現代的な最も重要な問題の解決に力をいれておられ、まさに時機を得ていると思います。

近年大学の方でも産学交流が活発ですが、申すまでもなく本学会においても基礎研究と応用研究の双方とも重要であり、地道な長期的な視野に立った研究とともに、実社会に役立つ学問に期待寄せられています。今後とも産・官・学の交流を緊密にして、この学会が益々発展されることを願って止みません。